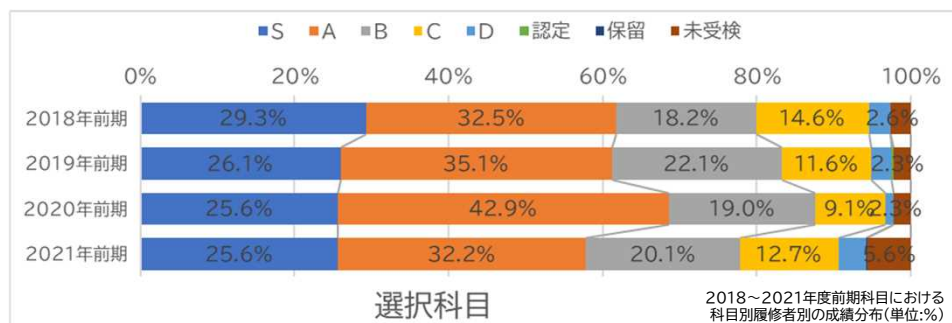
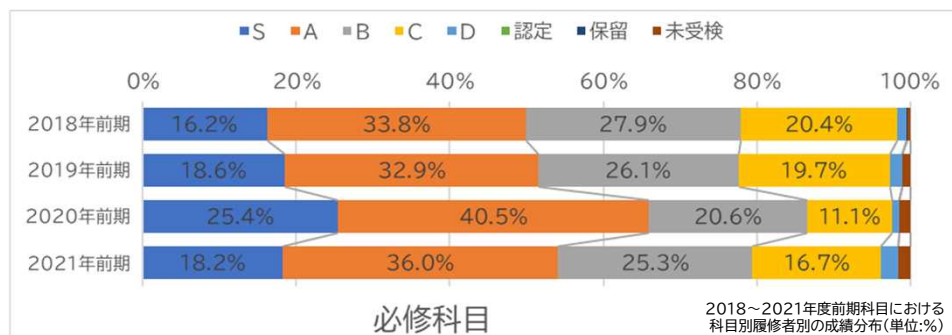


東京医療保健大学では学長直属組織として「IR(Institutional Research)推進室」という部署を設け、学生の皆さんの成績評価や授業評価など各種データの分析を行っています。これらのデータは、学生個人が特定されない形で各学部・学科や各教員にフィードバックされ、授業の改善などに役立てられます。

今回は、学生の皆さんにとって最も関心のあるデータと思われる成績についてご説明します。

Q1. みんなは大体どのぐらいの成績を取っているのか教えてください。



必修科目では、約半数の学生が「SまたはA」の高評価になっています。選択科目では、約6割の学生が「SまたはA」と高評価になる一方、「D評価や未受検」も増えて両極端になる傾向があります。

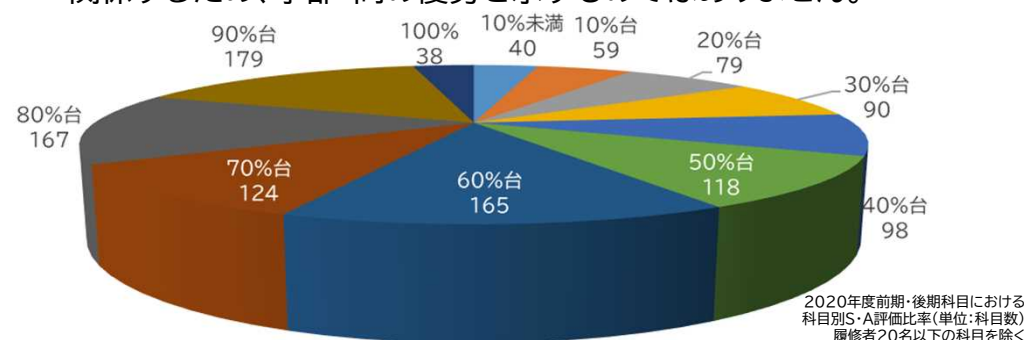
(複雑になるため一部の学部・学科にある選択必修や択一必修は含めておりません。)

なお、2020年度だけは、必修科目でも選択科目でも、高評価が多くなる傾向がみられました。急速に遠隔授業の導入が進む中で、成績の評価基準が一時的に不安定だった可能性もあります。今年度「成績が下がった！」と感じた方は、上記の影響もあるのでご安心ください。

Q2. 学部・学科や科目ごとにどのぐらい成績がばらつくのですか。



学部・学科ごとに、「SまたはA」の高評価となった学生の割合は異なります。高評価の学生が7割以上となる学部・科もあれば、3割強の学部・科もあります。この差異は教養／専門などの科目バランスも関係するため、学部・間の優劣を示すものではありません。



科目別に見ると、すべての学生が「SまたはA」の高評価となった科目が38個、逆に高評価の学生が10%未満の科目も40個ありました。科目の内容によって難易度のばらつきもある程度は生じます。今後ともモニタリングし、適正な成績評価を続けていくように努めます。